

令和6年度第1回柏市交通政策審議会地域公共交通部会

1 開催日時 令和6年5月24日(金)午前11時10分から午前12時00分

2 場 所 上下水道局 401・402 会議室

3 出席者

(1) 委員（出席15名）

本 会 場 出 席 者：藤井委員，伊東委員，宮崎委員，知久平委員，
高橋豊顕委員，間宮委員，吉崎委員，中嶋委員，
太田委員，高橋直人委員，平塚委員，内田委員，
松本委員，阿部委員，中野委員

欠 席 者：松丸委員，永田委員，小林委員，高橋直資委員

オブザーバー出席者：武藤氏（東武バスセントラル株式会社）

(2) 事務局

柏市 交通政策課

(3) 傍聴者数

4 名

(4) 副部会長の選出

星前副部会長が役職定年を迎えたため，藤井部会長の提案により，内田委員を新副部会長とすることで承認された。

(5) 議題

コミュニティ交通導入の手引きについて

資料 4-1, 4-2 及び 4-3 に基づき，事務局より説明を行った。

主な質疑は以下のとおり

【藤井委員】

差し替え資料に関して，柏ビレジ自治会の事例が当初資料に掲載されていた意図は理解したが，市原市の「あおばす」の事例に差し替えたことについて，「これは成功例だ」という表現をされていた。

スーパー，病院などの日常生活に関連した施設へアクセスするコミュニティ交通をひとつのイメージとしたとき，コミュニティバスの例ではなく，一般路線バス化された自治体の事例を出している意図はあるのか。

柏市もコミュニティバスに相当するものを運用しているため，収支率が良くなれば，一般路線バス化も展開していくような話があるという理解をしているが，実際，一般路線バス化はまだ難しいと聞いている。

それも含めて，どのような経緯でこの事例を採用したのかお示し願いたい。

【事務局】

藤井部会長の仰るとおり、柏市には一般路線バス化が可能なコミュニティバスはないのが現状である。

仮に、今後新たなコミュニティバスを運行することとなった場合、柏市から税金を用いて補填することになるが、「あおばす」の場合、市からの補填が必要ないスキームまで到達できた一つの成功事例というイメージを持っていたので掲載させていただいた。

【藤井委員】

成功事例と評価された取組であれば問題ないが、これに関しては少し異質という気がする。

私は市原市の公共交通会議にも参加しており、この「あおばす」の経緯はよく存じている。

そもそも、「あおばす」は住宅団地が建設されたことを発端に、その地域に路線バスがない背景があり、市と一体となって自主運行の路線バスを取り入れた経緯がある。

「あおばす」はその当時から100%近い収支率が担保されており、市原市も1/2収支という、運行経費の半分までは市が補填し、それでも不足する場合は地元が負担する仕組みをとっていた。

しかし、「あおばす」に関しては一度も市から補填を受けなくても運行できていたため、ある意味自治体主体ではあるものの、一般路線バスとして民間主体で取り組める路線ではないかという議論になり、転換した事例である。

そのことから、コミュニティバスの成功事例として挙げる意図はわかるものの、柏市にとって（ワニバース（市役所ルート）の）公共施設へのアクセス性向上を図るといったイメージとマッチングするかどうかは再検討していただきたい。

また、ワニバースにも逆井・南増尾・沼南コースがあるので、その事例でも構わないわけである。

定時定路線型あるいはデマンド型という違いが最低限分かればいいので、そのような事例を取りあげるということでもよい気がする。

【事務局】

県内事業を確認した際に、地域主体の取り組みという点にのみ注目したところがあり、こちらの掲載させていただいた事例写真については再検討させていただく。

【伊東委員】

『コミュニティ交通導入の手引き 実践編（案）』の中で、地域からコミュニティ交通を導入したいという声が挙がった際に、実際に実証運行を開始するにはどこが判断するのか。

また、地域公共交通会議とどのようにリンクさせながら市と議論するのか、プロセスを確認したい。

『コミュニティ交通導入の手引き 実践編（案）』のP.22「3-2 実証運行の準備」で、市が公的会議で諮問するという認識でよろしいか。

【事務局】

地域公共交通会議における協議承認という項目を設けており、こちらにリンクするイメージである。

【伊東委員】

この前段階で、収支率が実施条件に合致するか確認するとあるが、これはアンケート調査を基に予測し、収支率の計算をするということか。

【事務局】

そのとおりである。

【伊東委員】

『コミュニティ交通導入の手引き 実践編（案）』P.8の「資料3」住民の意向把握アンケート調査票の例が良例ではないと思った。

アンケートを確認すると、問3「日常の買い物について教えてください」では、選択肢①「不便を感じている」と回答した方はそこで終わってしまい、新しい交通手段を使うかどうかを聞いてない。

一方、選択肢②「不便を感じていない」を回答した方は、問4「買い物に行く際に、バス（有料）があれば利用しますか」で不便を感じていない方にバス利用を聞いていることになる。

選択肢①では、新しいコミュニティ交通を利用する前提のアンケートになっている。

次ページのP.9も同様、問6「病院に行く際に、バス（有料）があれば利用しますか？」に対して、選択肢①「すぐにでも利用する」と選択肢②「10年後は利用するかもしれない」という選択肢だと、月1回、週1回利用する方が答えづらいと思った。

どれぐらいの頻度で利用するのか、収支率の計算に合わない設問のため、例として好ましくないと思ったので再検討していただきたい。

【事務局】

伊東委員のご指摘のとおり、この例はそのまま使用するアンケートではなく、一例として添付したものになる。

冒頭にご説明したとおり、これまでに柏市が公共交通空白不便地域の方を対象に調査したアンケートを添付させていただいた。

運行頻度に関わるようなアンケートについては、実際にアンケートを行う際、市と地域の方で検討しながらご指摘のような内容を盛り込みアンケートにしたいと思っている。

【伊東委員】

このアンケート調査票は、市民の方に作成していただくという認識でよろしいか。

【事務局】

現状の想定は、手引きによるコミュニティ交通導入は地域主体で取り組んでいただくことになっている。

添付した資料も参考に、市も地域をお手伝いさせていただくと考えている。

【伊東委員】

そうすると、収支率の計算がしっかりとできるようなアンケート設計をしないと収支率の想定が出来なくなるので注意したほうがよいと思う。

【藤井委員】

この収支率の想定は最終的な評価にリンクしてくるものであるため、アンケート設計は大事な要件である。

『コミュニティ交通導入の手引き』の公表にあたり、これが独り歩きしたり、行政の求めているアンケートということで、ある程度抜き出して地域の方が使用される例も出てくるかもしれない。

是非、アンケートの記載内容についてもご配慮いただきたい。

この後、具体的なアンケートの内容についてご指摘があれば修正し、なければ改めてアンケートの内容を再検討していただければと思う。

このアンケートに関しては伊東委員が詳しいので、ご相談等していただければと思う。

『コミュニティ交通導入の手引き』の公表までに事務局の方で修正等対応していただければありがたい。

この『コミュニティ交通導入の手引き』は地域の皆さんに積極的に活用してもらえるよう、「わかりやすく」というのが問われるところである。
難しい段階を経なくては取り組めない仕組みではなく、まずは市にご相談いただくイメージが「見える化」されてきたと感じる。

今回、委員の皆様にお示しさせていただいた『コミュニティ交通導入の手引き』だが、特段大きな修正点がなく、アンケートの内容に関しては、今後のステップアップということでご対応いただければと思う。

これ以外にも、お気づきの点があれば事務局にお問い合わせいただきたい。

なお、軽微な修正等があれば、部会長の私が確認させていただくことでご一任いただければと思うが、委員の皆様よろしいか。

【委員一同】

異議なし。

【藤井委員】

また、地域の方々に少しでも早く公表できるよう、この部会をもって『コミュニティ交通導入の手引き』の議論を終了させていただきたいと考えているが、皆様よろしいか。

【委員一同】

異議なし

以上